

# 300年前と変わらぬ 旧街道と旧小路 そぞろ歩き

「柳川の道は、300年前の江戸時代の地図を見ても歩ける」と言われるほど昔のままの道が残るまち。辻町は、田中道（久留米柳川往還）、三池街道といった多くの道の起点となっていました。敵の侵入を防ぐために枡形（直角）に曲がった道や道標となる追分（おわり）の碑は、その名残です。

そして、武士や町人などが暮らす地域を通りごとに「小路」と呼んでいました。「江戸小路」や「隠居小路」、「北長柄小路」など、今も通称として残り、当時の暮らしの物語が潜んでいます。「旧戸島家住宅」のような武家屋敷も受け継がれ、城下町の風情感じるまち並みを、地図を片手にそぞろ歩いてみてはいかがでしょうか。

● 旧戸島家住宅  
柳川市鬼童町49番地3  
☎ 0944・73・9587  
開館時間／午前9時～午後5時 休館日／毎週火曜日・年末年始 観覧料／一般（小学生以上）100円（白秋生家入館者は無料）

白秋が愛した柳川・旧街道と旧小路そぞろ歩き



柳川市役所南、掘割沿いの水辺の散歩道で銀杏を集める子どもたち。この道は、「日本の道百選」に選ばれた道で、春は桜、秋は美ト、紅葉が小路を彩ります。



江戸小路を抜けて大通りへ出ると、柳川藩中老吉田兼備の隠居後の住まいとして建てられた「旧戸島家住宅」に出会えます。数寄屋風の意匠を持つ葦茸屋根の建物で、文政11年（1828）の建築。掘割から水を引き入れた池を持つ国の名勝庭園とともに、趣のある空間です。内部には、江戸時代の流行が随所にとり入れられ、李白の漢詩「蜀酌」が彫られた杉戸など、文人趣味の意匠が多くみられます。地元の方々の抹茶の文化も残る期間があり、先人たちが語り合った座敷でいただく、服のお茶は、格別なものがあります。